

中頭指導行政の基本方針
重点目標

最多・最大の最高を追求する中頭教育の創造
～地域に根ざし、共に子供の育ちを保障する魅力ある学校づくり～

育成をめざす資質・能力

- 実際の社会や生活で生きて働く「知識及び技能」の習得
- 未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」の育成
- 学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」の涵養

重点事項 「わったーわらび」の学力保障と成長保障

長期目標：持続可能な社会の創り手となる幼児児童生徒の育成

総括目標：幼児児童生徒一人一人に「生きる力」の基盤となる新しい時代をつくるために必要とされる資質・能力を育む。

基本方針

- 1 一単位時間の授業改善から単元を見通した授業改善へ
- 2 学んだことの意義や価値観を実感できるような肯定的な見取りや関わりへ
- 3 生徒指導の4つのポイントを生かした授業の実践
(自己存在感の感受、共感的な人間関係、自己決定の場の提供、安全・安心な風土の醸成)
- 4 「教える」の視点から子供の「学び・育ち」の視点へ
- 5 成果目標の評価から診断・学校診断的(学校アセスメント)評価へ

取組事項

- 1 育成すべく「資質・能力」の明確化と学校教育目標との関連
- 2 育成すべく資質・能力を踏まえた教育課程の編成・実施・評価・改善
- 3 主体的・対話的で深い学びの実現を図る授業改善(指導方法等の確立)
- 4 自主的、自発的な学習の促進(自立心・自律性の育成)
- 5 児童生徒の発達を踏まえた支援(子供一人一人の発達の支援)
- 6 豊かな心の育成(「特別の教科 道徳」)
- 7 健やかな体の育成(一校一運動、食べて動いてよく寝よう)

学校の取組

子供の「学びの姿」を創出する授業デザインの推進!!

- 1 教科会等の定例化と同僚性を発揮した運営
 - 週時に組み込む
 - 定刻開始
 - 集団力を生かす
- 2 校内研究と運動した授業研究(授業づくり)
 - 指導案検討と検証授業
 - 検証後のリフレクション
 - 校内OJT・チーム研修の推進
- 3 学力調査等における苦手領域の授業研究
 - 単元を見通した教材研究
 - 各種調査等の分析・考察
 - 授業改善ツール等の活用
- 4 学校・学年・教科で共通実践事項の点検
 - 授業スタンダードの点検
 - 板書・ノート指導等の統一
 - 家庭学習等の連動
 - フォーカスシートの活用

全国学力・学習状況調査結果

【小学校】()は昨年度の数値
国語65p(61.4); 県差±0p; 全国差-2.2p
算数57.2p(58.9); 県差-0.8p; 全国差-5.3p
【中学校】()は昨年度の数値、英語はH3.1
国語63.4p(62.6); 県差-1.6p; 全国差-6.4p
数学38.6p(39.9); 県差-1.3p; 全国差-11.1p
英語34.5p(48.2); 県差-1.5p; 全国差-11.1p

県学びの確かめと県到達度

同年生の伸び(6月と2月実施)
【小学校】67校中(県差をもとに算出)
5年 国語(27) 算数(32)
【中学校】32校(6月)
1年 国語(14) 数学(14)
2年 国語(14) 数学(19) 英語(15)

地域の取組

- 青少年健全育成の日奨励
- 放課後子ども教室推進事業
- 地域学校協働活動推進事業
- CGG運動
- 体験学習等への連携・協力

家庭の取組

- 規則正しい生活リズムの確立
- スマホ等の利用ルールづくり
- 学習習慣の確立
- ファミリー読書の推進

沖縄県教育委員会「重点事項」取組1
「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化
取組2
「自学自習力」を育む取組の充実
取組3
「学習基盤としてのICT」による児童生徒の学びに主体性を生かす取組の充実
取組4
自校の「目指す児童生徒像」実現に向けた校内研修の充実
取組5
「指導と評価の一体化」実現のためのPDCAサイクルの確立

○学校の活性化に効果の期待できる取組

- 1 校長講話(めざす姿の共有)
- 2 指導案作成と授業実践
- 3 授業を補完する取組
- 4 五者会等へ学校事務職員が参加
- 5 学校評価の分析・活用
- 6 校長による授業参観と助言
- 7 評価システム面談にてめざす姿等の確認
- 8 校内教育支援委員会の充実

「学びの質」を高める「子供を主体にした」の授業改善

	視点1 自己肯定感の高まり	視点2 学び・育ちの実感	視点3 組織的な関わり	改善ツール等
方策1 日常化する【質的授業改善】	○個人内評価の積極的フィードバック ○単元を見通し、資質・能力を育む授業改善・校内研究 ○生徒指導の4つのポイントを生かした授業	○よさや進捗状況の積極的評価		□授業における基本事項 □単元・授業プランシート
方策2 そろえる【組織的共通実践】	○調査分析に基づく児童・生徒の実感認識を共有	○評価の視点・観点をそろえる	○ガイダンスとカウンセリング機能の充実	□授業スタンダード等 □アセスメント調査等
方策3 支える【発達の支援】	○確かな児童生徒理解	○支持的な風土をつくる学校・学級経営(ガイダンスとカウンセリング)	○学びに向かう集団づくり	□不登校支援の手引 □集団指導と個別支援
方策4 見通す【学校組織マネジメント】	○学校課題の解決に向けた組織マネジメント機能(教育の質)を高める。	○学校評価と関連づけたカリキュラム・マネジメント及び年間サイクルの確立		□学力向上推進スクールプラン(カスタマイズ可)
方策5 つなぐ【学校連携・地域連携】	○市町村教育委員会による特色を生かした施策推進による学校づくり ○キャリア教育の視点を踏まえた校種間連携 ○学校・家庭・地域の連携(相互に支え合う互恵的関係の構築)			□学校訪問・連絡協議会 □キャリア・バスポート □学校運営協議会制度

「令和6年度学力向上推進スクールプラン」の作成、実態に合わせたカスタマイズ

■各学校は、全教職員で共通理解するために、「学校教育目標」⇒「目指す児童・生徒像」⇒「育成を目指す資質・能力」⇒「具体的な取組」⇒「評価指数」の基本的な流れを押さえて『学力向上推進スクールプラン』を作成する。なお、作成にあたっては、育成を目指す再整理された三つの柱(【知識・技能】【思考力・判断力・表現力等】【学びに向かう力・人間性等】)をプランに反映させる工夫をすること。そのため学校の実態に合わせて、枠を加えて作成してほしい。

カリキュラム・マネジメントを生かした自律的学校経営の推進

— 社会に開かれた教育課程の実現 —

中頭地区学力向上推進委員会【共通課題・共通実践事項】

<p>しっかり教える</p> <p>モデリング(教えて)「知識」「形」 コーチング(考え、試行させ)「動化」「修正」 フィードバック(確認付ける)「真実づける」</p>	<p>じっくり考え、させてみる</p> <p>主体的な学びづくり 子供が学び合う授業づくり 「主体的・対話的で深い学び」 「学習意欲」づくり ぶらわい「学校・学級をめざす組織的な活動」 「支持的な風土の醸成」</p>	<p>たっぷり価値つける</p> <p>子供自身が自分への価値を高める 「居るづけ」 自己肯定感 「居る育育」の高まり</p>
---	---	--

<p>2020年代を通じて実現を目指す学校教育</p> <p>育成を目指す資質・能力 自立・協働・創造 (自立した人間として、主体的に判断し、多様な人々と協働しながら新たな価値を創造)</p>	<p>新たな時代における学びの姿</p> <p>個別最適な学び ↔ 協働的な学び</p> <p>一体的な充実</p>	<p>中頭指導行政基本方針 重点事項(検討中)</p> <p>中頭型ウェルビーイングを目指して</p> <p>「わったーわらび」の学力保障と成長保障 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実 キーワード:「じりつ」「きょうどう」「そうどう」</p>
--	--	---

学び合う教職員の資質・能力向上

「チーム学校」づくりの推進